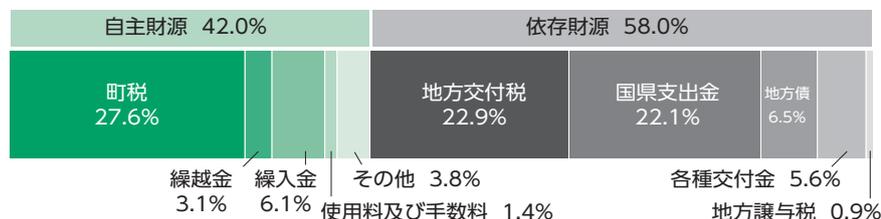


平成 29 年度

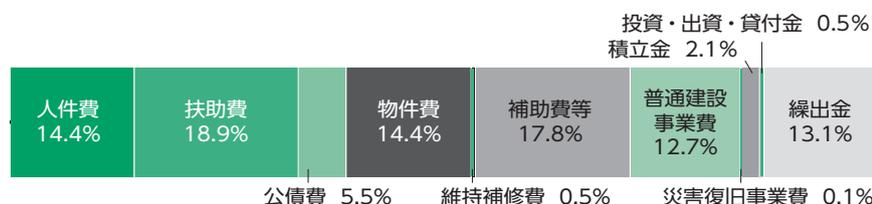
決算報告

9月の定例議会で、平成29年度の一般会計と2つの公営企業会計、3つの特別会計の決算が認定されました。その主な内容をお知らせします。
問い合わせ 総務課

一般会計収入総額 105 億 6,398 万円



一般会計支出総額 102 億 1,971 万円



単年度収支は黒字
実質単年度収支は赤字

一般会計決算額の収入と支出の差引額から、平成30年度に繰り越す必要がある財源を除いた実質収支額は3億4036万円となりました。

平成29年度の純粋な収支である単年度収支額は6300万円の黒字(表1)ですが、財政調整基金(※1)から3億円の繰り入れを行っていることなどから、実質単年度収支は1億2897万円の赤字(表2)となっています。また、財政状況の余力を示す経常収支比率(※2)は前年度に比べ2.4ポイント増加。94.7パーセントと過去最大の数値になりました(図1)。

※1 財政調整基金

財源に余裕がある年度に積み立てた「貯金」のようなもので、財源が不足した年度に活用する基金。

表1 単年度収支の算出

平成 28 年度 実質収支額 (A)	2 億 7,736 万円
平成 29 年度 実質収支額 (B)	3 億 4,036 万円
単年度収支額 (B - A)	6,300 万円

※当該年度と前年度の実質収支の差額

表2 実質単年度収支の算出

単年度収支額 (C)	6,300 万円
財政調整基金積立額 (D)	1 億 803 万円
財政調整基金取崩額 (E)	3 億円
実質単年度収支額 (C+D-E)	△1 億 2,897 万円

※単年度収支額に財政調整基金への積み立て分を追加し、取り崩し分を引いた額



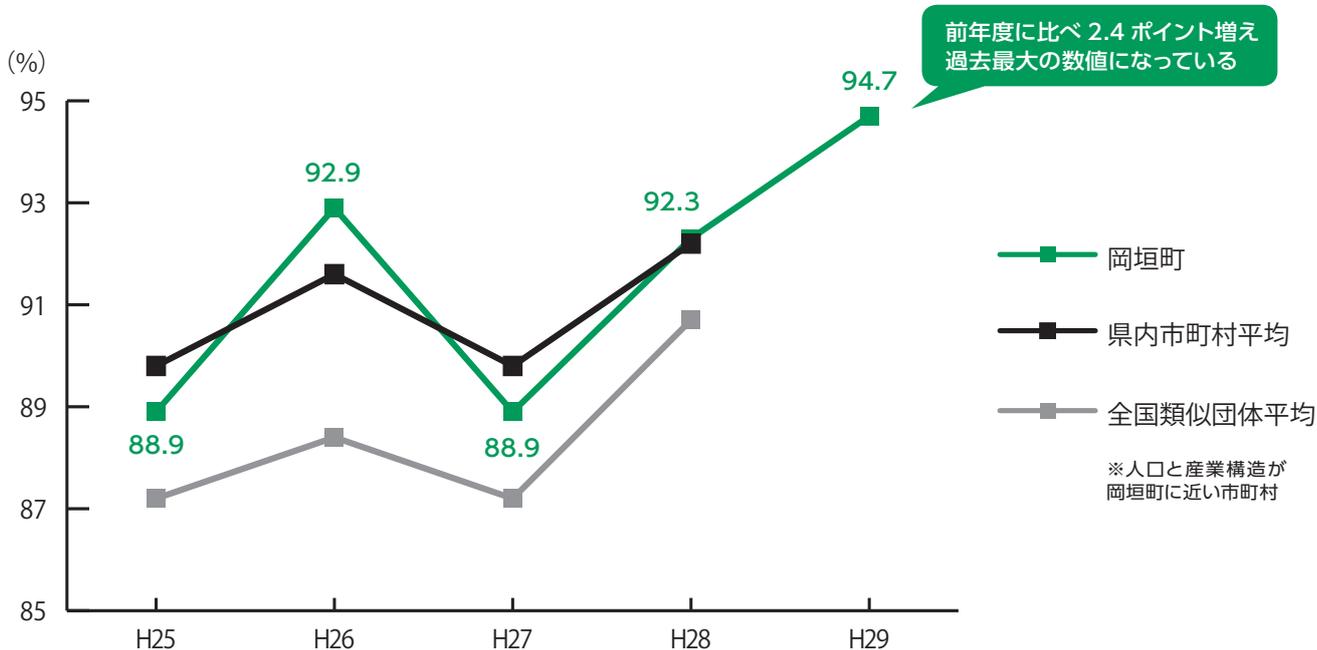


図1 経常収支比率の推移

※2 経常収支比率

財政状況の余力を示す数値。人件費などの経常的に支出される経費と、町税などの経常的に収入される一般財源との比率。数値が低いほど財政状況に余力があるとされている。

主な収入と支出の状況

収入面では、地方交付税は減少しましたが、町税や地方消費税交付金をはじめとする各種交付金などが増加しました。

支出面では、退職手当などの人件費や借入金の返済金である公債費、介護保険事業や後期高齢者事業への繰出金などが増加しています。

また、支出に対する収入の不足を補うため、財政調整基金からの取り崩しを行ったほか、退職準備基金やまちづくり整備基金など、町がこれまで積み立ててきた基金から、総額で6億3885万円を繰り入れました。

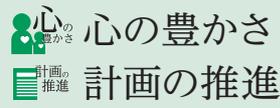
「選ばれるまち」への取り組み

平成29年度は、第5次総合計画で計画的に整備を進めてきた施設や環境などを最大限活用しながら、「住みたいと選ばれるまちづくり」「住み続けたいと思えるまちづくり」に取り組みました。

主な取り組みは、民間保育所の施設整備の支援や子ども医療の拡大、「でんたつくん」の戸別受信機の設置、JR海老津駅南側地区の開発支援、公共交通の維持存続の検証などです。それらの詳しい内容は4ページから5ページをご覧ください。

各取り組みが、第5次総合計画の「まちの将来像」のどの分野に当てはまるかを、右のアイコンで示しています。

 **輝き** 安全安心

 **心の豊かさ** 計画の推進

「住みたい」「住み続けたい」と選ばれるまちへ――。

 **農業の生産性向上を支援**

943万円

米や麦などの品質向上や低コスト生産に向けた取り組み、ハウス栽培などの収益性を高めるための高性能機械や先進技術の導入、省力機械・施設などの整備を支援しました。



4億9,744万円

有線放送に代わって災害や緊急情報、地域情報を皆さんに伝える「でんたつくん」。基地局の工事や各世帯などへの戸別受信機の設置を行いました。平成30年度は未設置の世帯などに設置します。

 **安全安心**

地域情報伝達無線システム「でんたつくん」の整備

 **民間保育所 施設整備の支援**

1億702万円

待機児童の解消を図るため、岡垣ほしのはいくえんの定員を拡大するための施設整備を昨年に引き続き支援しました。平成29年6月に1期施設、12月に2期施設、平成30年3月に園庭などが完成しました。



 **安全安心**

- 岡垣町空き家等対策計画の策定 331万円
- 定住促進対策 4,704万円
- 国道3号岡垣バイパス4車線化 187万円
- 地域福祉計画の策定 284万円
- 災害時の避難支援システムの導入 561万円 など

 **輝き**

- 地下水ブランド化の検討 235万円
- 森林の保全対策 1,355万円
- 農業基盤整備の促進 2,272万円
- プレミアム商品券の発行 1,029万円
- 環境啓発・人材育成 145万円 など



5,468 万円

観光協会などと連携しながら、町の情報発信や集客イベントを行うなど、「観光ステーション北斗七星」を拠点に観光プロモーションを推進しました。また、本格焼酎「岡垣」の販売10周年を記念した「岡垣 原酒」の販売を支援しました。



観光ステーション北斗七星を拠点とした観光推進



子ども医療の拡大

1億 1,484 万円

通院医療費の助成対象を中学3年生まで拡大し、疾病の早期発見と治療の促進、子育て世帯の医療費の負担軽減を図りました。



5,959 万円

公共交通の利用促進などに向けた各種施策に取り組むとともに、デマンドタクシーの実証運行をはじめ、公共交通の維持存続を検証しました。



公共交通の維持存続を検証



JR海老津駅南側地区の開発

1億 2,169 万円

JR 海老津駅を中心とした幹線道路網の形成などを行い、居住環境の向上や駅南側開発の促進のための検証を進めました。また、JR 鹿児島本線北側から旧国道3号までの区域の民間宅地開発に対して奨励金を交付しました。



その他の取り組み



計画の推進

■自治区やコミュニティへの活動支援	3,249 万円
■おかがき応援寄附金事業の推進	971 万円
■広報おかがきの発行など	1,215 万円
■ボランティアセンターの運営	683 万円
	など



心の豊かさ

■英語教育の充実	1,359 万円
■こども未来館の運営など	3,123 万円
■学童保育所への防犯カメラ設置	384 万円
■体育施設などの維持・整備	584 万円
■岡垣サンリーアイの管理運営	2億 6,916 万円
	など

厳しさを増す 町の財政運営

減少する基金
増加する地方債

町の財政は、ここ数年支出が収入を上回っています。そのため、財政調整基金などの基金を取り崩して収入不足を補っており、平成29年度は基金から6億3885万円を繰り入れました(図2)。また、

臨時財政対策債(※3)などの地方債を継続して発行しており、平成29年度は6億9036万円の借入れを行いました(図3)。
この結果、基金残高は前年度末と比べて4億2418万円減少し、地方債借入金残高は前年度末と比べて1億7859万円増加しました(図4)。

図2 基金繰入額の推移

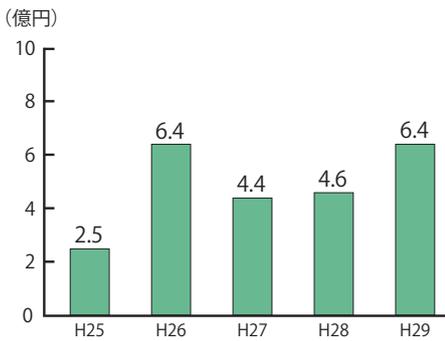


図3 地方債借入額の推移

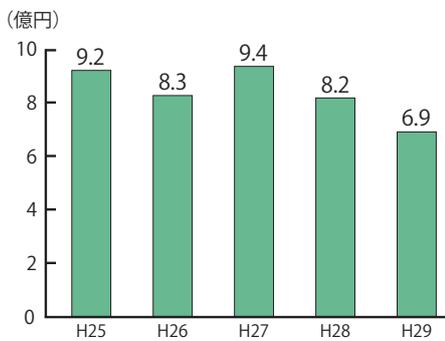
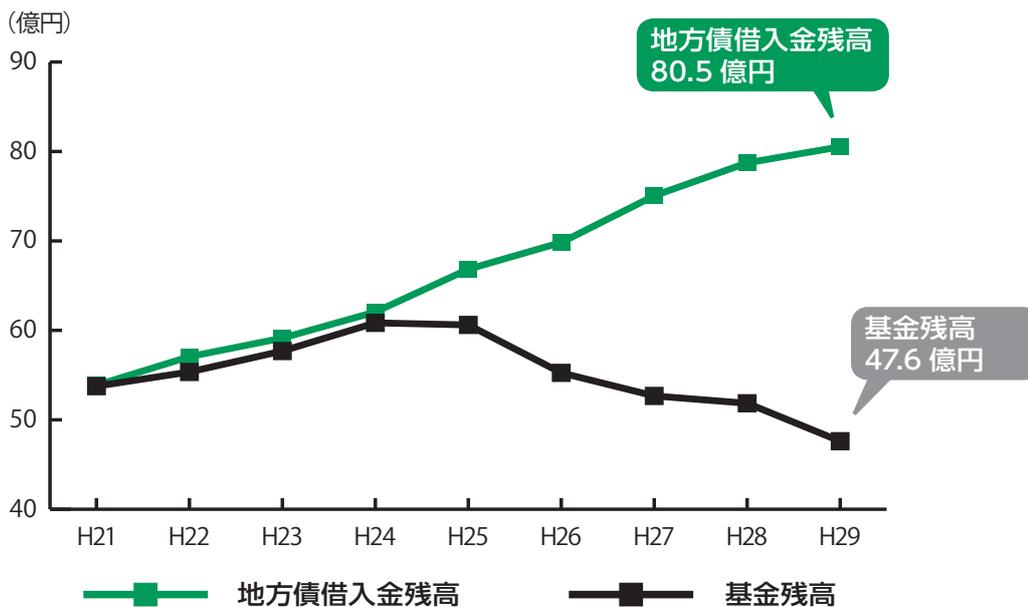


図4 基金残高・地方債借入金残高の推移



※3 臨時財政対策債

地方交付税の不足分を町が国の肩代わりをして借り入れるもの。この返済費用は、今後国から受ける地方交付税で補われる仕組みになっている。

今後も支出の増加が見込まれている

今後の支出面では、少子高齢化による社会保障費や公共施設の老朽化に伴う維持管理・更新経費のほか、地方債借入金残高の増加に伴う借入金の返済金などの大幅な増加が見込まれています。このように、今後も支出の増加が見込まれていることから、自主財源の柱である町税をはじめとする収入の確保と支出の削減が課題となっています。

健全な財政運営を行うために

このような課題に対応するため、第5次総合計画や、まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる事業を着実に実行し、住みたい、住み続けたい町としての魅力を高め、定住人口・交流人口の増加を図り、収入の確保に向けた取り組みを進めます。

また、限られた収入を有効活用しながら、増加する支出を削減するためには、さらに効率的な行政運営を行うことが必要です。平成29年度に策定した「行政改革推進計画」の実行や事務事業の見直しによる事業のスリム化を進めながら、長期的な視点での健全な財政運営を行います。

平成 29 年度 公営企業会計・特別会計

2つの公営企業会計と3つの特別会計の平成 29 年度決算額をお知らせします。

公営企業会計

■水道事業

■収益的収支	収 入	4 億 8,108 万円
	支 出	4 億 5,901 万円
■資本的収支	収 入	1 億 3,780 万円
	支 出	3 億 2,539 万円

皆さんに安定して「おいしい水」を供給するための会計です。主な収入は水道料金。主な支出は浄水場や配水池の維持管理費です。

■下水道事業

■収益的収支	収 入	9 億 8,000 万円
	支 出	8 億 8,759 万円
■資本的収支	収 入	5 億 8,622 万円
	支 出	9 億 8,726 万円

快適な生活を送るための下水道の整備や維持管理を行うための会計です。主な収入は下水道使用料や受益者負担金、一般会計からの繰入金。主な支出は下水道の施設工事費や浄化センターの維持管理費です。

※収支金額は税抜き金額。資本的収支の不足額は、公営企業に留保している資金で補っています。

特別会計

■国民健康保険事業

収 入	41 億 3,730 万円
支 出	42 億 9,398 万円

国民健康保険加入者の保険給付や保健事業を行う会計です。主な収入は加入者の保険税や国・県からの負担金・補助金。そのほか、一般会計からの繰入金 3 億 599 万円などがあります。主な支出は保険給付費 25 億 6,490 万円、共同事業拠出金 8 億 9,380 万円などです。平成 29 年度は 1 億 5,668 万円の赤字となり、平成 30 年度の収入から不足分を補いました。

■後期高齢者医療事業

収 入	5 億 6,006 万円
支 出	5 億 4,596 万円

後期高齢者医療制度の保険料の徴収などを行う会計です。主な収入は保険料と一般会計からの繰入金。主な支出は後期高齢者医療広域連合への納付金です。

■住宅新築資金等貸付事業

収 入	411 万円
支 出	77 万円

主に住宅新築資金の貸付金の回収と借入金の返済を行う会計です。